

れた国家的祭祀と関連しており、その具体的内容は『延喜式』によつて一応知ることができる。同式の四時祭・祝詞の大祓条によると、穢を負わせた人形を四国のト部が祓所に解除することがみてゐる。

本遺構の性格を考える場合、近郊にある出羽国府（城輪柵跡）との関連は見逃せない。宮都を中心に行われていた祭祀が、地方行政機関を通じて次第に広まつていったと考えられており、地方行政の中心である出羽国府においても同様な祭祀が伝えられていたことがうかがえる。SM六〇祭祀遺構の時期は人面墨描土器の形態からみて九世紀中葉頃と推定されるが、現に嘉祥三年（八五〇）に、全国に先駆けて出羽国に陰陽師が派遣されているのである。

9 関係文献

山形県教育委員会『俵田遺跡第2次発掘調査報告書』（山形県埋蔵文化財調査報告書第77集 一九八四年）

金子裕之「人形—古代・中世のひとがた」（『中世の呪術資料』第四回中世遺跡研究集会レジュメ 一九八四年）

佐藤庄一「俵田遺跡の祭祀遺構」（『えとのす』第26号 一九八五年）

安部 実「山形県俵田遺跡第二次調査」（『日本考古学年報36』一九八六年）

（佐藤庄一）

木簡研究 第五号

卷頭言——木簡史の研究について——

関 晃

一九八二年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 白毫寺遺跡 藤原宮跡 山田寺跡 阿部六ノ坪遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長岡京跡(4) 仁和寺南院跡 大坂城跡 梶子遺跡 道場田遺跡 野畠遺跡 穴太遺跡 下野国府跡 下野国府跡寄居地区遺跡 長原東遺跡 多賀城跡 払田柵跡 日野川朝宮橋下流 桜町遺跡 出合遺跡 辻井遺跡 助三畠遺跡 肩脊堀の内遺跡 草戸千軒町遺跡 田村遺跡 高畠廃寺 藤田遺跡

一九七七年以前出土の木簡（五）

藤原宮跡

字訓史資料としての平城宮木簡

—古事記の用字法との比較を方法として—

平城宮出土の衛士関係木簡について
木簡とコンピュータ
書評・『草戸千軒—木簡—』

小林 芳規
鬼頭 清明
田中 琢
水藤 真

頒価 三五〇〇円
四〇〇円